

自然と共存し人に優しい農業とは

鳥取県・鳥取県立日野高等学校 1年 白迫 健翔

私は将来、自然と共存した農業をしたいと思っている。私は子どもの頃、両親の仕事の関係で母の実家に預けられることがよくあった。母の実家には曾祖母がいて、私は曾祖母のことが大好きだった。曾祖母の後ろをよくついて歩いていて色々なことを学んだ。その中の一つに農業がある。曾祖母は自分の家で食べられるほどの野菜を作っていて、私はよく曾祖母の畑へついていっていた。その頃の記憶は正直あまりないが母たちの話によると、曾祖母が世話をする姿を見て真似^{まね}して草取り、水やりや収穫などをするようになり、だんだん農業に興味を持つようになっていったようだ。その当時の私は単に農作業は楽しいというシンプルな思いしかなかった。小学1年の夏、私は自分で野菜が育ててみたいくなり、自分の家の庭に畑の土を運んできて数種類の夏野菜を育てた。しかし、収穫が近づき始めた頃、次々とカラスに食べられてしまい、ショックが大きすぎて農業への興味が薄れてしまっていた。再び農業への道を意識し目指そうと考え始めたのは進路を考えるようになった中学3年の夏である。曾祖母は収穫した野菜をよく近所の人におすそ分けして喜んでもらっていた。その姿を思い出し、農業は人を幸せにできる仕事ではないかと思い始め農業が学べる高校を目指そうと考え始めた。そして今年農業の学べる高校へ進学した。しかし、入学した当日に曾祖母が亡くなった。悲しすぎる出来事だった。農業のできる高校に行くことと決めたのは曾祖母の影響なので、ますます農業への思いが強くなった。亡くなった曾祖母の顔を見ていると「農業を頑張る」と言ってくれている気がして、曾祖母から農業のバトンを渡されたと感じた。農業の道を進んでいこうと改めて固く決意した。

農業の道を目指して色々調べていく中で、農作物の販売方法について疑問を感じるようになった。曾祖母の畑の隣で農作業をしている人と曾祖母の農業への向き合い方が全く違うことを子どもの私は不思議に感じていた。「どうして隣

の人はたくさんの野菜を収穫して次々トラックに積んでいっているのに、大きいばあばは草取りや水やりばかりして、野菜は自転車に乗せている段ボールに入る量しか収穫しないのだろう」といつも思っていた。私は曾祖母に「どうしてあの人はあんなにたくさんの野菜を作っているの」と尋ねたことがあった。すると曾祖母は「農協に出すためだよ」と教えてくれた。しかし、付け加えて「農協は安く買い取るけん、農協には出すもんじゃない」とも言った。当時の私はその意味が全く分からず、「農協って何だろう」としか思っていなかった。しかし、私は成長していくにつれて、どうして曾祖母は農協に出すもんじゃないと言ったのか疑問に思うようになった。

その疑問を解決するために、私は農協のしくみについて調べていくことにした。そして三つの問題があると思った。一つ目は、農協に出荷された野菜は安い価格で買い取られていることである。一生懸命作った農作物が安く買い取られている事実は私には正直ショックな内容だった。そして二つ目の問題は、多くの農家は農作物の販売方法を農協に出荷することしか知らないということである。この二つの問題はまさに曾祖母の隣の畑で一生懸命働いていた人にピッタリ当てはまる。農協に出荷し少しでも多くの収入を得るために多くの農作物を作り、そのために懸命になって働かなければいけなかったのだと理解できた。三つ目の問題は、農協に出荷する場合、農薬を使った作物も無農薬の作物も同じ値段がつけられていることである。農薬を使った野菜は害虫の影響が少なくなるが、無農薬の野菜はこまめに世話をしなければ害虫にやられ出荷ができなくなってしまう。農協には無傷なものでなければ出荷することはできない。無農薬栽培には農薬を使った栽培以上の労働力がかかっているにも関わらず、同じ価値のあるものとして扱われているのだ。

農業の仕事に就きたいと思うようになった今、どのような方法で出荷すれば働きに見合った収入を得ることができるのか、農協にも必ずメリットはあるのではないのだろうかと思い、以前農協で働いていた経験があり、現在農業で生計を立てている方に話を伺いに行った。

その方によると、販売するには農協に出荷することが一番いい方法だということだった。理由として大量生産した場合、個人売買では全部を売りさばくことは難しい。もし売り切ることができなかった場合には破棄したり自分で消費

したりするしかなく、1円の収入も得ることができない。野菜を育てるために投資してきた肥料代や用具代を取り戻すことができず赤字となってしまう。農業を始めたばかりの頃は利益を優先し、農協の力を借りて出荷することで利益を生み出し、軌道に乗せた方がいいと勧められた。農協の長所は、農作物を流通させるプロであり、出荷したものを売りさばくことができることである。そのため生産者は出荷した分だけの収入を確実に得ることができる。しかし、短所は出荷できる品目が限られていて、何でも出荷できるわけではないことだ。出荷できる種類が多すぎると、デフレが起こってしまい一つ一つの価値が下がってしまう。そのため、出荷されたものを売りさばけない可能性が出てしまう。そして生産者の収入が減ってしまう最大の理由は、出荷すると手数料を引かれることだ。だいたい売上金の2%を引かれると聞いた。

農家の方から話を聞いて思ったことは、農業を始めた最初の頃は^{もう}儲けを優先した農業をしていくことが必要であるということだ。儲けが出なければ生活を安定させることができず、農作物を育てるための必要物品を購入することができないため、農業を続けることが困難となってしまう。ある程度収入が安定していなければ理想とした環境を作って農業をしていくことができないため、安定した収入が必要条件であると改めて実感した。どんな仕事であっても収入を得て生活を安定させること、経費を捻出できる利益を出すことの必要性は共通して言えることだと思う。

私は体に優しい農業も目指している。具体的には無農薬の野菜作りをしたいと考えている。無農薬の野菜は手間隙がかかっているため、値段設定を高くしてしまうことになると思う。消費者は、購入に躊躇^{ちゅうちよ}し、もしかしたらなかなか購入してくれないかもしれない。それに対して、農薬を使った野菜は害虫や病気の影響を受けにくい。そのため大量に作ることができ、値段を安くすることができる。しかし、体に何か影響が出てきそうな気がする。最近健康志向の人が増えてきて、高くても購入してくれる消費者が増えてきているという話をよく聞くようになった。値段に違いをつけることで価値があるものだと証明することになり、安心して食べてもらえることにもつながると思っている。私は無農薬の野菜に興味を持っている方には個人売買もしていき、口伝えに良さが伝わっていくことも目指している。

私が目指す自然と共存した農業に近づいていくためには、まずは収入を得ることが必要だ。農協に出荷し安定した収入を得ることが自分の第一歩であると思う。それが叶^{かな}ったら次にしたいことは、農協に出荷しながら自分でも販売していくことだ。販売範囲を広げることで人とのつながりを広げていくことができ、そこからまたより広い範囲に人とのつながりを広げていきたい。お客だけでなく、農家同士のつながりを作っていく、野菜や花に対する考えや育てる方法などを共有していきたい。例えば自然と共存していくために、ビオトープを作って人と交流することもできるのではないだろうかと思っている。ビオトープを作ることで、色々な人が集まり、交流を深める場とすることができると思っている。ビオトープを作るということは、まず自然あふれる環境を整えることになる。農作物を育てることで鳥や小動物が、草木の種子や虫を運んでくれる。周囲から野生動植物が自然に入って出来上がる生息範囲が増えることで、自然と共存した農業ができるのではないだろうか。植物があふれ、微生物や小さな生き物たちがすみ着く場所を作りながら農業につなげていきたい。

ビオトープを目的に集まった人達に自分の無農薬の野菜を食べてもらうことも私の夢だ。スーパーの野菜と自分が作った野菜を食べ比べてもらったり、とれたての野菜を洗わずに食べてもらったりすることで、無農薬の作物の良さや価値を感じてくれる人達を増やしていきたい。

農業を始めたきっかけである曾祖母は「人を喜ばすために農業はある」と言っていた。私はその考えを受け継いで生態系を守っていきながら、無農薬の農業をしていきたい。ビオトープを作ることは自分一人の力では決してできない。共感してくれる人を多く見つけ、その方達とのつながりを大切にしながら自然と共存した農業、特に無農薬の作物の良さを伝えていきたい。

私は農業の勉強を始めたばかりで、まだ知識はほとんどないが農業の楽しさは誰よりも知っていると思っている。消費者に信頼してもらえるような野菜を作っていくために、進学や農家に弟子入りなどをして知識や技術などを高めていくつもりでいる。農業の魅力を伝えていき、自然と共存した農業ができるように、目標に向かって多くの経験と知識を得ていけるように労を惜しまず努力し夢を必ず実現したい。